



【一宮町長賞】 たかやま ゆい
高山 唯

お父さんへ

お元気ですか。ゆいは22歳になりました。

大学楽しいよ。すてきな人がたくさんいてる。

お父さん、毎日どう過ごしているのですか。

この手紙がお父さんの手に届くことはないから（なぜなら送る場所が間違っているから）空リプみたいで虚しいけど、どうしても文字にしたいくて手紙を書きました。

小さいとき、お父さんがずっと家にいることがすごく不思議だった。

友だちを家に呼べないのは残念だったけど、一人で留守番することがなかったから寂しくなかった。お父さんが起きてくれなくても一緒に布団に入るだけで、あったかくて しあわせだった。

お母さんから「結婚する相手間違えたわ」という言葉は何回もきいたけど、私はお父さんとお母さんの子どもに生まれてこれたこと、間違っていなかったと思ってる。あと私に唯って名前をつけてくれたこと。本当に感謝しています。

私高校の時、不登校になるわ、中退するわ、死にたいわで大変だったんだから（笑）でも、唯一たった一人の唯だからと思ったら頑張れた。

私、この名前じゃなかったら、きっとダメだった。なんであの頃は思わなかったんだろう。大丈夫、私たち家族は幸せです。お父さんが気にすることは何もありません。

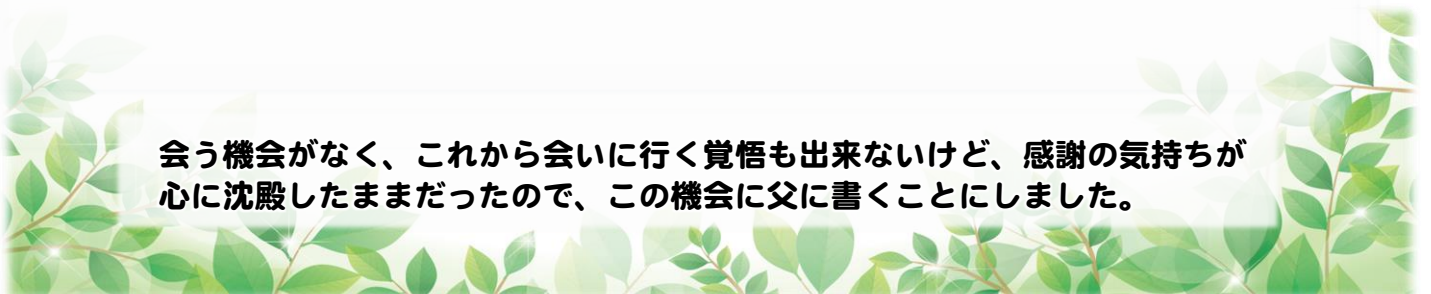
お父さんはしっかりご飯食べて、お日様の光をちゃんと浴びてください。

私に子どもができれば、一緒に名前考えようね。

でも、今のところまったくその見込みはないので、どうか長生きしてください。

唯より

（大阪府／22歳／女性／学生）



会う機会がなく、これから会いに行く覚悟も出来ないけど、感謝の気持ちが心に沈殿したままだったので、この機会に父に書くことにしました。